生種の日本晴が作付面積の大半を占めている。

品種に採用し、現在はこれが主要品種となっている。

採用年

明治37年に

よいとされ

ていた品種

明治42年に

原種圃が設 置されてい

大正9年に

原種圃が設 置された品

大正 10

IJ

大正 12

IJ

大正 13

IJ

大正 15

昭和1

11 2

11 5

11 8

" 10

" 11

" 11

" 11

II 15

" 17

II 18

" 24

יי 27

יי 27 *II* 27

יי 27

" 27

II 28

II 29

II 29

II 30

II 32

II 33

II 33

II 33

II 33

II 34

II 34

II 35

II 37

II 37

II 39

II 39

11 39

II 42

11 44

II 45

11 48

11 48

y 50 *II* 53

II 57

採用年

昭和16

" 16

II 23

II 35

II 35

採用年

明治 42

11 43

" 43

大正 6

11 6

" 10

" 10

" 10

" 10

" 10

" 13

" 14

" 14

" 15

II 15

昭和 6

" 13

II 23

" 28

y 30

y 31

II 33

II 39

II 54

採用年

明治43

II 43

大正 10

" 11

" 13

" 15

昭和 7

" 14

" 19

II 19

II 36

11 42

採用年

昭和 10

不 明

昭和13

" 13

II 25

" 26

II 33

11 54

II 56

採用年

昭和13

" 16

" 31

採用年

昭和13

" 13

" 14

" 17

" 18

II 19

" 20

" 21

" 24

" 31

" 41

採用年

昭和19

" 19

#34年以前]]]]

II 36

採用年

昭和 23

" 27

" 27

" 31

位

品種名

徳島旭7号

徳島旭7号

徳島晩稲1

農林 18 号

農林 18 号

アケボノ

アケボノ

サチワタリ

日本晴

10a 当収

量 (kg)

1.74 石

1.37

1.59

1.52

292

135

269

274

269

1.57 石

1.65

1.15

1.57

1.63

294kg

283

65 306

314

336

291kg

力

神

比率

(%)

15

51

20

16

13

18

20

22

18

17

16

15

15

17

20

27

33

39

42

44

45

46

48

51

た品種

品種名

丹波出雲

竹 成 撰

殼 良 都

丹波出雲

都

徳島権八12号

』早生神力3号

雄 町 6号

〃 新関取 17 号

〃改良神力11号

神 カ 9 号

〃 讃 岐19号

徳島早生神力 129 号

〃神 力156号

〃 讃 岐 143 号

" 中 稲 1号

徳島高尾糯38号

畿 内 晚 33号

徳島 旭 7号

〃 神 力 36 号

晩 稲1号

ッ 大泉15号

〃 中稲 稲 2号

" 虎 丸 5 号

リ 早生3号

生 旭

知 旭

のる

農 林 2 号

剣

農林8号

亀 治 2 号

農 林 18 号

農 林 51 号 千 本 旭

西 海 21 号

シモッキ

農 林 37 号

農 林 22 号

コトブキモチ

アケボノ

ミホニシキ

サチワタリ

農 林 17 号

祝糯

農 林 29 号

山 陰 46 号

シオジ

ササシグレ

セトホナミ

越後早生

コシヒカリ

ナギホ

トョサト

ヤマビコ

ウズシオ

本

トヨタマ

アキッホ

ミネユタカ

クレナイモチ

ミネニシキ オオセト

品種名

陸稲農林 5号

2. 麦類 (1)裸麦

悩んでいる。

九

白

香

養

米

IJ

IJ

早

(2)小麦

〃 糯6号

品種名

Ш

徳島珍 好83号

〃 九 州 110号

〃 香川裸 73 号

養 父 45 号

米裸

九州 13 号

珍好1号

米裸 1号

白麦 8 号

小ピン6号

裸

香川 5 号

生

赤 神 力

セトハダカ

ハヤウレハダカ

ハシリハダカ

コウナギハダカ

シラヒメハダカ

ビワイロハダカ

積のおよそ90%を占めている。

品種名

徳 島 宝 満

徳島筑摩 29号

中相州畿内5号

徳島宝満 3号

江 島 神 力

農 林 43 号

シラサギコムギ

ウシオ コムギ

品 種 名

不

徳島大豆 2号

八月大豆

タマムスメ

アキョシ

フクユタカ

品 種 名

徳島黄色在来種

長 交 202 号

品種名

系 3 号

林 2 号

縄 100 号

1 号

林

農 林 7 号

クロシラズ

ベニュタカ

品種名

アリーローズ

農林1号

シマバラ

品種名

農林6号

農 林 14 号

ツクシナタネ

ミチノクナタネ

作付面

(ha)

28,801

27,757

28,403

27,890

31,000

30,800

31,200

31,300

31,200

31,000

30,700

30,900

30,100

29,800

29,600

29,000

28,600

27,800

25,100

22,900

22,100

21,700

22,100

22,200

21,900

21,600

19,600

19,400

18,400

17,700

17,500

年度

昭 7

15

20

26

31

35

40

45

50

55

57

昭 7

15

20

26

31

35

45

50

55

57

年度

大10

昭 6

16

26

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

種

類

裸

麦

小

麦

10a 当

収

量

(kg)

263

250

238

285

312

317

314

345

316

300

356

332

353

269

352

369

349

401

341

333

378

398

385

405

371

419

436

390

362

445

388

作付面積

(ha)

24,113

23,052

23,604

23,680

23,630

20,300

10,500

6,570

2,100

1,090

748

2,934

4,458

3,710

4,470

4,180

5,040

5,590

2,050

468

560

544

源

島 1 号

崎

氏

力

知

白

作

綿

3. その他

たちでなくなった。

花

目

矢

玉

ッ 52 号

65 号

満

摩

宝

筑

州

好

裸

父

裸

糯 1 号

22 号

糯 20 号

晴

トワ

ダ

玉

愛

2

黄

権

関

三

神

石

大

雄

神

讃

白

八

取 張

把

力

白

泉

力

岐

近年品種の早生化が進むと共に、機械化適応性の高い短強稈で良質な品種へと変わってきた。現在は奨励品種普及率が88%程度に高まり、品種別では早

明治末期から大正中期にかけては、天子糯、井本糯、一本糯などが主として栽培されていたが、大正中期からは高尾糯が栽培されるようになった。その後品種 改良により高尾糯から徳島高尾糯38号を選出し、大正12年に県の奨励品種に採用されて広く栽培されるようになった。この品種は、餅質が極めて良かったた め、昭和37年頃まで糯種の代表的品種として栽培され続けた。しかし、この頃より全体に早生品種の要望が高まり、昭和29年にコトブキモチ、同33年に祝糯が 奨励品種に採用され、これに代って徳島高尾糯38号は同39年に奨励品種から廃止されたので作付面積は減少した。その後はコトブキモチと祝糯が主として栽 培されたが、いずれも機械化適応性が劣るため、田植機が普及し始めた昭和45年頃からこれに代わる品種の要望が強くなり、昭和50年にクレナイモチを奨励

早期栽培用のもち品種としては、県の奨励品種ではないが、昭和30年頃から信濃糯3号が主として栽培され、現在においてもかなりの栽培が行われている。

第6表 水稲奨励品種の改廃状況

原産地 富山県

徳島県

京都府

三重県

埼玉県

大阪府

兵庫県

三重県

大正6年原種決定試験始まる。

大正13年交配種固定試験始まる。

大正 15 年場内に原種圃を移し 1ha 設置する。

||昭和8年に奨励品種査定会規定ができる。

昭和29年原種決定試験は1/2国圃となる。

大正7年名東郡佐那河内村で原種圃 1ha 設置する。

大正9~14年の間は名東郡加茂名町 1ha 設置する。

備

考

奨 励

在年数

15

2

7

6

2

15

4

4

3

41

13

30

19

33

7

9

5

7

23

16

16

17

21

5

不 明

8

12

不 明

21

12

継続

4

15

15

6

3

4

継続

5

6

14

6

継続 3

1

継続

IJ

奨 励

在年数

19

25

13

13

第7表 陸稲奨励品種の改廃状況

明治末期から大正中期にかけては在来種の中から多収性のものを選出して奨励した。九州、白珍好、香川裸、養父、米裸などがこの時代の主要品種として栽 培された。大正中期から昭和10年頃には、純系淘汰や人工交配による品種改良が行われ、その結果選抜された代表的品種として徳島珍好83号、徳島珍好1 号、徳島白麦8号、徳島香川5号があり、その内徳島白麦8号は、良質で多肥増収性品種として、また、徳島香川5号は、少肥栽培用適品種として昭和40年代 まで 広く県下に栽培された。昭和13年には早生裸が奨励品種に採用され、平坦部のたばこ前作として栽培された。戦後昭和30年頃までは食糧事情が悪く、増 収品種の要望が高かった時代で、赤神力、セトハダカ、ハヤウレハダカなどが奨励品種に加えられ栽培面積も多かった。しかし、昭和30年代後半からは食糧事 情が 好転したため栽培面積が激減して現在に至っている。昭和58年現在奨励品種はユウナギハダカとビワイロハダカの2品種であるが、ビワイロハダカは伸び

第8表 裸麦奨励品種の改廃状況

原種圃が設置されていた品種

大正 11 年麦原種圃を 1 ha とする。

原種ほ約 63 a

奨 励

在年数 13

11

12

4

37

6

10

6

4

14

30

14

47

5

33

18

13

8

20

5

継続 9

継続

明治末期から大正10年頃までは、宝満、筑摩の原種圃が設けられ種子が配布されたが、裸麦に比べて栽培面積は少く、明治44年には約4,370町で裸麦の 7分の1であった。その後純系淘汰により徳島筑摩29号、徳島宝満3号が選抜され昭和10~15年頃まで主要品種として栽培された。昭和7年には徳島筑 摩29 号を廃止し、江島神力を奨励品種に採用したが、この品種は大粒良質であり県下一円に普及した。昭和7年以降は、小麦増産計画が立てられると共に奨励品 種決定試験が開始され、昭和14年には小麦農林43号、昭和19年には小麦農林52号、小麦農林65号などの農林省育成品種が奨励品種に採用されていった。

戦後は、肥料事情の好転に伴い長稈で倒伏に弱い江島神力や収量性のやや低い小麦農林43号が次第に減少し、小麦農林65号と小麦農林52号に変わっ ていった。その後昭和36年にシラサギコムギ、昭和42年にウシオコムギが奨励品種に採用され、前記品種に入れ替わったが、ウシオコムギは赤カビ病には強い が晩熟で品質も十分でなかったので伸び悩み、昭和48年に奨励品種から除かれた。現在はシラサギコムギが唯一の奨励品種であり、品質の評価も高く栽培面

第9表 小麦奨励品種の改廃状況

原種圃が設置されていた品種

昭和7年奨励品種決定試験始まる。

奨 励

在年数

10

10

5

10

20

13

26

22

23

23

継続

奨 励

在年数 17

> 41 28

> 17

30

継続

継続

奨 励

在年数

3

奨 励

在年数

5

14

3

9

10

第13表 ジャガイモ奨励品種の改廃状況

第14表 ナタネ奨励品種の改廃状況

第 15 表 水稲主要品種の作付動向

奨 励

在年数 10

位

品種名

早生神力

早生神力 129

徳島晩稲1号

愛知旭

高尾糯38号

ミホニシキ

ミホニシキ

サチワタリ

農林 29 号

農林 29 号

金南風

アケボノ

農林 29 号

農林 29 号

アケボノ

農林 29 号

コシヒカリ

セトホナミ

日本晴

セトホナミ

セトホナミ

セトホナミ

セトホナミ

セトホナミ

ミネユタカ

サチワタリ

サチワタリ

サチワタリ

コシヒカリ

ミネユタカ

コシヒカリ

品種名

徳島白麦8号

徳島珍好83号

徳島香川5号

IJ

IJ

徳島白麦8号

ハヤウレハダカ

ビワイロハダカ

徳島宝満3号

中相州畿内5号

小麦農林43号

小麦農林 52 号

IJ

小麦農林65号

小麦農林 52 号

ウシオコムギ

IJ

比率

(%)

5

7

7

8

8

8

7

7

8

13

12

12

10

8

7

7

7

8

位

第 16 表 麦類主要品種の作付動向

比率

(%)

19

19

32

25

21

27

2

1

6

21

17

25

14

25

29

12

7

8

14

9

奨 励

在年数 14

14

第11表 トウモロコシ奨励品種の改廃状況

第12表 サツマイモ奨励品種の改廃状況

準奨励品種

昭和13年原種圃設置

原種圃が設置されていた。

昭和17年に七福と名称変更。

昭和48年以降自然消滅した。

昭和48年以降は自然消滅した。

昭和48年以降は自然消滅した。

位

品種名

徳島晩稲1

徳島神力36

西海 21 号

農林 37 号

愛知旭

農林 29 号

農林 29 号

アケボノ

アケボノ

アケボノ

金南風

金南風

金南風

金南風

コシヒカリ

農林 29 号

コシヒカリ

コシヒカリ

コシヒカリ

アケボノ

アケボノ

コシヒカリ

ミネユタカ

越路早生

越路早生

越路早生

コシヒカリ

ミネニシキ

コシヒカリ

ミネユタカ

岐

比率

(%)

4

4

6

7

8

7

7

7

5

6

5

7

7

7

6

5

5

5

5

6

7

7

品種名

徳島珍好83号

徳島珍好1号

徳島珍好83号

赤神力

IJ

セトハダカ

徳島香川5号

ハヤウレハダカ

IJ

セトハダカ

ハヤウレハダカ

徳島筑摩5号

中相州畿内5号

小麦農林65号

江島神力

シラサギコムギ

小麦農林 52 号

ウシオコムギ

小麦農林65号

セトコムギ

5

品種名

改良神力11

号

みのる

シモツキ

農林 37 号

農林 37 号

農林 17 号

農林 17 号

ミホニシキ

ミホニシキ

東山38号

東山 38 号

ミホニシキ

コシヒカリ

東山38号

セトホナミ

ヤマビコ

アケボノ

アケボノ

コシヒカリ

コシヒカリ

越路早生

越路早生

コシヒカリ

コシヒカリ

コシヒカリ

越路早生

越路早生

越路早生

越路早生

比率

(%)

19

14

7

3

2

1

1

15

11

19

17

11

1

0.2

位

玉

位

比率

(%)

3

7

5

5

5

5

5

7

6

6

5

5

5

6

昭和48年以降自然消滅した。

大豆については、現在も奨励品種があるが、陸稲は一般農家の栽培がほとんどなくなったため、昭和48年に奨励品種を廃止し、その他の作物も自然消滅のか

第10表 大豆奨励品種の改廃状況

準奨励品種

準奨励品種

準奨励品種,早期用

準奨励品種

早期用

準奨励品種

準奨励品種

48年は準奨, 49年から奨励採用

備

備

備

備

考

考

考

考

考

位

品種名

新関取

虎丸5号

千 本 旭

農林8号

アケボノ

高尾糯 38

農林 18 号

ミホニシキ

ミホニシキ

東山 38 号

東山 38 号

ミホニシキ

ミホニシキ

東山 38 号

東山 38 号

金南風

金南風

東山 38 号

ヤマビコ

ヤマビコ

ヤマビコ

越路早生

アケボノ

コシヒカリ

セトホナミ

セトホナミ

セトホナミ

ミネニシキ

サチワタリ

サチワタリ

サチワタリ

4

品種名

徳島九州 13 号

徳島香川5号

早 生 裸

徳島珍好83号

赤神力

ハヤウレハダカ

徳島香川5号

セトハダカ

ビワイロハダカ

徳島白麦8号

徳島宝満3号

小麦農林 43 号

IJ

小麦農林65号

小麦農林 52 号

位

比率

(%)

6

5

3

2

2

0.1

10

9

7

0.2

3

比率

(%)

2

3

3

6

6

4

5

品種名

高尾糯 38

高尾糯 38

号

高尾糯 38

コトブキモチ

高尾糯 38

号 高尾糯 38

高尾糯 38

号 高尾糯 38

号 高尾糯 38

糯

糯

糯

糯

祝

祝

祝

祝

コトブキモチ

コトブキモチ クレナイモチ

クレナイモチ

クレナイモチ

クレナイモチ

糯

祝

奨励品

種

比率 普及率

(%)

6

8

1

5

5

3

3

3

3

3

3

2

2

2

3

3

2

3

3

3

2

2

2

2

2

位

5

品種名

徳島香川裸 73 号

徳島九州 13 号

徳島珍好1号

徳島香川1号

ユウナギハダカ

セトハダカ

IJ

徳島白麦8号

江島神力

59

65

76

77

77

69

72

76

78

77

80

84

86

88

比率

(%)

6

2

5

3

5

1

1

備

備

備

考

考

考

廃止年

昭和10

大正 11

昭和2

大正 13

昭和11

大正 15

大正 11

昭和 11

大正 14

IJ

昭和1

11 39

" 11

II 29

" 18

II 32

" 10

11 8

" 11

" 10

" 15

" 18

II 34

" 27

" 27

II 32

II 33

II 39

II 29

不 明

昭和35

II 39

不 明

昭和 50

II 57

" 42

昭和37

11 48

11 48

II 39

II 39

II 37

II 39

11 49

昭和 44

11 45

II 53

11 48

昭和 48

11 49

廃止年

昭和48

II 35

11 48

11 48

11 48

廃止年

大正 11

" 10

" 11

昭和33

11 2

11 6

" 2

大正 14

昭和14

" 30

" 14

11 48

11 6

11 39

" 31

II 36

II 36

" 50

" 36

昭和48

廃止年

大正 9

11 9

" 15

昭和 7

" 19

" 14

II 33

II 36

11 42

11 42

昭和48

廃止年

昭和 27

II 33

II 54

" 41

II 42

*1*1 56

廃止年

昭和 16

廃止年

昭和17

" 18

不 明

不 明

昭和33

II 23

昭和33

" 41

廃止年

昭和33

II 33

廃止年

昭和33

昭和36

位

品種名

改良神力

徳島神力36

愛知旭

農林 18 号

愛 知 旭

アケボノ

金南風

金南風

金南風

金南風

農林 29 号

農林 29 号

アケボノ

アケボノ

農林 29 号

アケボノ

アケボノ

アケボノ

セトホナミ

日本晴

サチワタリ

サチワタリ

サチワタリ

サチワタリ

サチワタリ

ミネユタカ

ミネユタカ

ミネユタカ

ミネユタカ

ミネニシキ

ミネニシキ

1

品種名

徳島珍好1号

徳島白麦8号

IJ

コウナギハダカ

IJ

IJ

IJ

中相州畿内5号

江島神力

IJ

小麦農林65号

シラサギコムギ

IJ

IJ

位

9

9

8

8

8

11

15

18

15

13

10

10

10

10

10

比率

(%)

23

75

43

33

39

38

76

93

97

93

24

57

50

29

31

31

73

83

83

91

比率

(%)

7

17

12

水稲および麦類の他に奨励品種が定められていた作物には陸稲、大豆、トウモロコシ、ナタネ、サツマイモ、ジャガイモなどがある。

で古くから栽培された早生種であり、作柄が安定している点とワラが細くねばりがあり、ワラ加工用としても適したため積極的に栽培された。その後権人の純系分

(1)うるち

離により王子権八、坊主権八、権八82号等の優秀品種を選抜して一般に普及した。神力についても、岡山神力、改良神力、鹿児島神力、伊予神力等が出現し、 その内伊予神力はその後永く本県に栽培された。

大正中期から昭和10年頃にかけては、純系淘汰と人工交配による品種改良が進み、その結果育成された代表的品種として徳島晩稲1号、徳島旭7号、徳島 神 力36号、徳島虎丸5号などがあり、これらはいずれも本県の気候風土に適し広く栽培された。特に徳島晩稲1号は昭和20年には作付面積の第1位を占める に至った。昭和10~20年頃には愛知旭、亀治2号、みのる、剣、農林8号、農林18号などの新交配種が奨励品種に採用され、その内愛知旭、農林8号、農林 18号は昭和30年過ぎまで良質多収品種として作付面積の上位を占めた。 戦後は、食糧増産の時代が続き、農林29号、ヤマビコ、サチワタリ、金南風、農林37号、ミホニシキ、アケボノなどが主要品種であった。昭和40~45年頃には、 短稈、多肥、多収性品種としてナギホ、トヨサト、トヨタマなどの出現をみたが、これらはいずれも品質が十分でなく、米過剰時代を迎えた昭和45年以降はほとん ど姿を消した。また、この頃から農作業の機械化が急速に進み、田植機が普及し始めたため、従来の品種は長稈で倒伏に弱かったり、良質米の生産が叫ばれ るようになった結果、次第に栽培面積が減少して、現在の奨励品種に入れ替った。 昭和30年頃からは早期栽培が普及し始めたために極早生用の品種が導入され、初期には農林17号、トワダ、ササシグレなどが奨励品種に採用されたが、現 在では、これらの品種は姿を消し昭和37年に採用された越路早生とコシヒカリが倒伏に弱い欠点を持ちながらも良質米として栽培されている。

(2) 55

当場開設後大正中期にかけては、主として在来種やそれらからの純系分離によって選出された品種で占められ、神力と権人の全盛時代であった。権人は本県